



共に育てる

詫間中学校に赴任し、4年目をむかえている。私は、教師として「3年計画」を常に意識している。中学校の3年間で生徒たちを社会で役立つ心豊かな人間に育てようと考えて日々のそんでいる。これは詫間中学校教職員全員が意識していることでもある。言葉で表すと「凡事徹底」ということになるだろうか。この「3年計画」の中でどうしても必要となるのが保護者・地域の理解と協力である。

我々が思っているよりも地域や他人の目は厳しく、今年度学校へのクレームは後を絶たない。

私は体育祭で詫間中学校の教職員は、魂のこもった教育活動を実践していると話しました。教職員は日々「ならぬものはならぬ！」と言い続けています。

しかし・・・

5月29日（金）H&S「自転車の乗車マナーおよびヘルメットの着用に関するお願い」

5月22日（金）H&S「自転車通学・乗車時の交通安全についてのお願い」

5月22日（金）浦島伝説No.6「凡事徹底のチェック」

その他各学年団からの通信などでお願いを続けてきましたが、いっこうに改善が見られません。改善が見られないとはどういうことかを説明します。

地域の方からの苦情の連絡が増えているということです。昨年度までは、それほど多くありませんでしたが今年度に入り、

- 「自転車での4列での走行」
- 「下校時の小学校への許可なしの侵入」
- 「西野公園での小学生への妨害行為」
- 「釣り禁止区域での釣り」
- 「ノーヘルでの自転車運転」
- 「あご紐をしないでの自転車運転」
- 「スマホを使用しながらのながら運転」
- 「地域の方や大人から注意された後のふざけた言動」
- 「コンビニや商店でのたむろ」などなど



これらは、すべて学校に苦情としてかかってきている内容の一部です。自転車の鑑札番号などを知らせていただいた場合は、後日学校で指導を行い、保護者への連絡も実施しています。登下校時は、学校の教育活動範囲に入りますが、帰宅後や休日は家庭での指導の範囲だと考えています。

このように学校の教職員の業務以外の内容が多発してきますとまっとうに日々過ごしている生徒たちと先生方の教育活動に大きな支障をきたします。

また、クレームの電話連絡を聴き続けなければならない教職員のメンタルも大きく傷つけられることとなっています。何度も何度も同じことを繰り返されると生徒のことを真剣に魂を込めて指導している先生方が病気になりかねません。保護者の皆さんも知ってのとおり現在教職員の代わりはどこにもいません。私は、子どもたちは、保護者や地域と共に育てるものだと考えています。同じ失敗を繰り返さない指導をご家庭でも何度も繰り返してください。共に指導を繰り返していきましょう。

子育てが終わった私は、285名の生徒を我が子と思いながら声をかけています。もちろん厳しい言葉もかけています。ぜひ、詫間中学校の生徒たちを保護者のみなさんと我々教職員で「3年計画」で個々の考えている進路に向けて成長させていこうではありませんか。我々も魂を込めて取り組んでまいりますのでご協力をどうぞよろしくお願いいたします。（文責：大前和弘）

「環境が人をつくり その環境は人がつくる」